

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会総会 2013

2013（平成 25）年 10 月 24 日～25 日

ホテルメトロポリタン高崎
JR 東日本高崎車両センター高崎支所
上信電鉄高崎車両区



は じ め に

日本鉄道保存協会は今年で満 22 歳となりました。当初の正会員は 14 団体でしたが、今年はずいに 42 団体、当初のちょうど 3 倍に達しました。当初は車輛の動態保存団体だけで出発しましたが、その後は有力な博物館や意欲にあふれる自治体、ボランティアのグループなども加わり、多彩な顔ぶれがそろってきたことは喜びにたえません。本年は、旧国鉄の承継事業者としては最も多くの動態保存蒸気機関車を保有する JR 東日本が正会員として加入してくださり、同社の高崎支社の絶大なご支援を得て、高崎で総会を開くことになりました。総会翌日の見学会は、JR 東日本と上信電鉄のご協力を得て、JR 東日本高崎車両センター高崎支所と上信電鉄高崎車両区を訪問し、さらにオプションとして碓氷峠交流記念財団のご協力を得て、午後には碓氷峠鉄道文化むらを訪問することになっています。このような豪華な内容の見学会を開催できるのは、ひとえに地元の皆様のご厚意のおかげで、ここに厚くお礼申し上げます。

一昨年の大震災・津波・原発事故が残した深い傷はまだ癒えませんが、日本経済はようやく長い不況から脱出するかに見えます。リニア新幹線やオリンピック開催のニュースが好感をもって迎えられる反面、既に決まった消費税引き上げの影響がわれわれの仕事や日本経済にどのような影響を与えるか、予断を許さないものがあり、欧米の経済状況や、不安定さを増す近隣諸国との関係など、多くの不安材料を抱えていると言えます。先の見えない世の中にあって、いまの日本人の心は、騒々しい成長と繁栄よりも、もっと奥深い精神と文化の豊かさを求めていると言えましょう。日本の近代化を牽引した鉄道遺産を保存し、その価値を後世に伝える私たちの活動は、現代の日本人の心の底にある欲求に添うものであり、現在の鉄道ブームを単なる流行に終わらせないよう、理解者と支援者を増やす努力を続けたいと思います。

正会員がついに 40 団体を越えた今年は、私どもの足下を固める年と位置づけ、法人化の問題や山田コレクションの保全活用などの懸案について、方向付けを明確にしたいと思います。正会員、賛助会員、友の会会員各位のご理解とご協力を得ながら、将来の発展を期したいと思います

2013 年 10 月 24 日

日本鉄道保存協会代表幹事団体
公益財団法人交通協力会理事長 菅 建彦

日本鉄道保存協会 2013 年度総会・見学会プログラム

日 時 2013 (平成 25) 年 10 月 24 日 (木) ～ 25 日 (金)

場 所 総 会 ホテルメトロポリタン高崎「丹頂Ⅲ」
交流会 ホテルメトロポリタン高崎「丹頂Ⅰ」
見学会 東日本旅客鉄道株式会社 高崎車両センター高崎支所
上信電鉄株式会社 高崎車両区
碓氷鉄道文化むら (オプション)

主 催 日本鉄道保存協会

共 催 東日本旅客鉄道株式会社 高崎支社

10 月 24 日 (木)

13 時 30 分 受 付 ホテルメトロポリタン高崎「丹頂Ⅲ」

14 時 00 分 総会挨拶

代表幹事団体 公益財団法人交通協力会 理事長 菅 建彦
東日本旅客鉄道株式会社 高崎支社運輸部車務課長 一木 剛

14 時 50 分 休 憩

15 時 00 分 開催地報告

東日本旅客鉄道株式会社 高崎車両センター支所長 武内 浩一

15 時 30 分 事例報告・意見交換

碓氷鉄道文化むら 館長	小板橋 博
真岡鉄道 SL 運行協議会 事務局長	中山 文行
NPO 法人加悦鐵道保存会 事務局長	荒川 泰昌
片上鐵道保存会 代表	森岡 誠治
九州旅客鐵道株式会社 広報室長	森 勝之

16 時 50 分 終 了

各自チェックイン

18 時 00 分 交流会 ホテルメトロポリタン高崎「丹頂Ⅰ」
挨拶
東日本旅客鉄道株式会社 執行役員高崎支社長 江藤 尚志

20 時 00 分 終 了

10 月 25 日（金）

9 時 00 分 見学会 ホテルメトロポリタン高崎 1 階集合
①東日本旅客鉄道株式会社 高崎車両センター高崎支所
②上信電鉄株式会社 高崎車両区
※2 班に分かれ、①・②を交互に見学します。
※上信電鉄株式会社による「鉄道グッズ」の販売があります。

11 時 50 分 昼 食 ホテルメトロポリタン高崎「丹頂Ⅰ」
※昼食後、東日本旅客鉄道株式会社による「鉄道グッズ」の販売があります。
※オプションで「碓氷鉄道文化むら」にお越しの方は、高崎駅 13 時 12 分発
の横川行電車で各自ご乗車ください。

14 時 00 分 碓氷鉄道文化むら見学（オプション）
終了後、各自解散

日本鉄道保存協会 会員名簿

2013.10.24 現在

<凡 例>

番 号	団 体 名
〒	団体所在地 / 連絡先住所
	電話番号 / Fax 番号
	団体代表者名
	RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

01 遠軽町（旧丸瀬布町）

〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長	佐々木 修一
丸瀬布総合支所長	小谷 英充
観光係長	小山 信芳 (☆)

02 陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）

〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長	石橋 強
副会長	山本 周二
事務局長	杉本 武勝 (☆)

03 NPO 法人 ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東 3 線
Tel 0156-42-3385 Fax 0156-42-3682

会 長	那須 襄太郎
事務局長	角田 久和 (☆)

04 三笠市

〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所商工観光課 商工観光係
Tel 0126-72-3997 Fax 0126-72-7880

市 長	小林 和男
主 事	中谷 優輝 (☆)

05 三菱大夕張鉄道保存会

〒068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6-502
Tel 011-387-4783

会 長	奥山 道紀
事務局長	今井 一郎 (☆)

06 北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644 北海道札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786

代表取締役社長	野島 誠
運輸部車両課副課長	大畑 裕昭 (☆)

07 NPO 法人 北海道鉄道文化保存会

〒047-0041 北海道小樽市手宮 1-3-6
小樽市総合博物館内
Tel 0134-61-7777

代表理事	飯田 勝幸
専務理事	清水 道代 (☆)

08 小坂鉄道保存会 ※新規加入

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山古館 48-2
小坂町役場観光産業課
Tel 0186-29-3908 Fax 0186-29-3728

代 表	千葉 裕之
総務局長	亀沢 修 (☆)

09 真岡線 SL 運行協議会

〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285 82 9152

会 長 (真岡市長)	井田 隆一
事務部長	増山 明
事務局長	中山 文行 (☆)
係 長	軽部 修

10 けいてつ協会

〒321-1511 栃木県日光市足尾町松原 12-5
せんろ商会足尾事務所
Tel・Fax 0288-93-3403

代 表	岡本 憲之 (☆)
-----	-----------

11 鹿島鉄道保存会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel 03-5802-2755 Fax 03-3818-2700

代 表 加藤 三千尋 (☆)

12 鉾田駅保存会

〒310-0001 茨城県水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735

理 事 川津 重夫 (☆)

13 碓氷峠鉄道文化むら（一般財団法人 碓氷峠交流記念財団）

〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111

理事長 上原 有一
館 長 小板橋 博 (☆)

14 デハ 3499 号車保存会 ※新規加入

〒331-0802 埼玉県さいたま市北区本郷町 313 蓮見住宅 C-3

代 表 日暮 誠一 (☆)

15 日本工業大学

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570

学 長 波多野 純
館 長 松野 建一
講師・学芸員 丹治 明 (☆)

16 秩父鉄道株式会社

〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551

代表取締役社長 大谷 隆男
車両課長 根津 泰生 (☆)

17 西武鉄道株式会社

〒359-8520 埼玉県所沢市くすのき台 1-11-1
Tel 042-926-2283 Fax 042-926-2239

代表取締役社長 若林 久
車両課長 藤澤 利之 (☆)

18 東日本旅客鉄道株式会社 ※新規加入

〒151-8578 東京都渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352

代表取締役社長	富田	哲郎
総務部課長	吉田	圭
総務部企画グループ	安彦	仁 (☆)

19 公益財団法人 東日本鉄道文化財団

〒151-8578 東京都渋谷区代々木 2-2-2
JR 東日本本社ビル 11 階
Tel 03-5334-0623 Fax 03-5334-0624

理事長	清野	智
企画部担当部長	高橋	政弘 (☆)

20 一般社団法人 東武博物館

〒131-0032 東京都墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814

名誉館長	花上	嘉成
専務理事・館長	山田	智則
管理課長	山澤	晴行 (☆)

21 公益財団法人 日本ナショナルトラスト

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190

会長	大塚	陸毅
事業課	會田	千春 (☆)

22 公益財団法人 交通協力会

〒102-0083 千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809

理事長	菅	建彦 (☆)
-----	---	--------

23 横浜市電 1156 号修復プロジェクト ※新規加入

〒231-8445 神奈川県横浜市中区太田町 2-23
神奈川新聞文化部
Tel 090-9015-3707

代表	齊藤	大起 (☆)
----	----	--------

24 上松町（赤沢森林鉄道）

〒399-5603 長野県木曽郡上松町上松 159-3
上松町観光情報センター内 上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-1133 Fax 0264-52-4180

町 長 田上 正男
産業観光課 織田 浩市（☆）

25 虹の郷（一般財団法人 伊豆市振興公社）

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 4279-3
Tel 0558-72-7222 Fax 0558-72-7133

理事長 鈴木 健範
園内交通課 秋山 忠久（☆）

26 大井川鐵道株式会社

〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115

代表取締役社長 伊藤 秀生
鉄道部長 大石 保（☆）

27 東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）

〒455-0848 愛知県名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
リニア・鉄道館
Tel 050-3772-3910

代表取締役社長 山田 佳臣
副館長 天野 満宏（☆）

28 博物館明治村（公益財団法人 明治村）

〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358

館 長 鈴木 博之
所 長 鷺見 勝彦（☆）

29 長浜鉄道スクエア（公益社団法人 長浜観光協会）

〒526-0037 滋賀県長浜市高田町 12-34
Tel 0749-65-6521 Fax 0749-64-0396

事務局長 清水 義康（☆）

30 貨物鉄道博物館

〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道本社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142

館 長 清水 武
理 事 北川 潤（☆）

31 西日本旅客鉄道株式会社

〒530-8341 大阪府大阪市北区芝田 2-4-24
Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053

代表取締役社長 真鍋 精志
広報部（鉄道文化） 伊藤 忠章（☆）

32 公益財団法人 交通文化振興財団

〒552-0001 大阪市港区波除 3-11-10
交通科学博物館内
Tel 06-6581-5771 Fax 06-6584-1309

理事長 真鍋 精志
専務理事・館長 兵東 勇
学芸員 廣田 琢也（☆）

33 加悦 SL 広場（宮津海陸運輸株式会社）

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel 0772-42-3186 Fax 0772-43-0080

代表取締役社長 野田 真人
管理課長 柴田 万喜也（☆）

34 NPO 法人 加悦鐵道保存会

〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町加悦 433
旧加悦駅舎 加悦鐵道資料館
Tel・Fax 0772-43-0232

理事長 吉田 博一
理事・事務局長 荒川 泰昌（☆）

35 ふるさと鐵道保存協会

〒674-0051 兵庫県明石市大久保町大窪 818-3 中井方
Tel・Fax 090-3896-1046

理事長 笹田 昌宏
副理事長 中井 健二（☆）

36 片上鐵道保存会

〒733-0813 広島県広島市安芸区船越 2-26-5
Tel・Fax 082-507-2035

代表幹事 森岡 誠治（☆）

37 若桜駅を元気にする会

〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場企画財政課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134

会 長 藤原 源市
事務局 木地谷 諭 (☆)

38 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103

理事長 渡辺 一正
事務局長 太田 縁 (☆)

39 山口線 SL 運行対策協議会

〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1
山口県観光振興課内
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179

会 長 山本 隆士
観光振興課主事 竹重 浩太朗 (☆)

40 馬路村

〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鉄道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208

村 長 上治 堂司
魚梁瀬支所長 五藤 寿史 (☆)

41 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長 唐池 恒二
広報室長 森 勝之 (☆)

42 北九州線車輛保存会

〒813-0003 福岡県福岡市東区香住ヶ丘 7-2-1
香椎花園内レトロ電車パーク
Tel 080-6412-1666

代 表 手嶋 康人 (☆)

賛助会員

01 株式会社ネコ・パブリッシング

〒153-8545 東京都目黒区下目黒 2-28-18 目黒山手通ビル
Tel 03-5745-7813

Rail Magazine 編集長 名取 紀之 (☆)

02 株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F
Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597

編集長 宮原 正和 (☆)

03 日本鉄道写真作家協会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
レイルマンフォトオフィス内
Tel 03-3221-0271 Fax 03-3221-0272

会 長 猪井 貴志
事務局長 中井 精也 (☆)

04 北陸重機工業株式会社

〒950-0871 新潟県新潟市山木戸 7-3-69
Tel 025-274-3311 Fax 025-271-4812

取締役会長 霜鳥 勝徳
営業課長 岩橋 正人 (☆)

05 株式会社 JTB パブリッシング

〒162-8446 東京都新宿区払方町 25-5
Tel 03-6888-7845 Fax 03-6888-7876

代表取締役社長 竹浪 譲
編集長 河合 桃子 (☆)

06 有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57
Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310

代表取締役 伊藤 博康 (☆)

07 株式会社片上鉄道

〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原 517

Tel 080-3541-5552 Fax 082-507-2035

代表取締役

森岡 直子 (☆)

08 株式会社日本旅行

〒105-8606 東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル

Tel 03-3572-8718

代表取締役社長
鉄道プロジェクト

丸尾 和明
瀬端 浩之 (☆)

09 トレインプラン

〒662-0054 兵庫県西宮市大谷町 3-30

代 表

太田 裕二 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

赤羽 誠
倉繁 聡
田中 光一

阿部 豊
清水 薫
西尾 恵介

井門 義博
白川 淳
藤井 修

岩野 弘一
関田 克孝
水野 弥彦

加藤 圭也
橘 秀幸

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行

平成 6年 8月10日改正

平成16年 9月10日改正

平成20年10月 2日改正

団体名	遠軽町	〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町115-2 遠軽町丸瀬布総合支所産業課 TEL. 0158-47-2213 FAX. 0158-47-2128
-----	-----	---



森林鉄道編成による撮影会(H24.6.24)

雨宮21号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輛の1台です。

用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

平成16年度 北海道遺産に認定（北海道）
平成20年度 近代化産業遺産に認定（経済産業省）
平成24年度 準鉄道記念物に認定（JR北海道）

1. 運行日 平成25年4月27日から10月20日までのGW・夏休み・土・日・祝日
2. 運行時間 10時から16時30分（30分毎）
3. 運行区間 森林公園いこいの森 2km
4. 乗車料金 大人500円（高校生以上） 小人250円（4才以上）



【軌道用自転車・あめまる君が大人気】

平成23年に保線作業用に使われていた軌道用自転車3輛をJR北海道より寄贈をいただき、762ミリに改軸や座席シートの設置、試験走行など行い、森林公園いこいの森保存車輛として仲間入りしました。

運行は3車輛連結で雨宮号や廃線跡地の説明を行いながら12分、2kmの走行を体験できる新たな取り組みとなっています。

イベントに数回登場する森林公園いこいの森のゆるキャラ「あめまる君」も大人気です。

<2013イベント>

4/27日～29日	【雨宮21号+井笠客車】と【DL機関車+木曾森林客車】の同時運行
7/27日～28日	
9/14日～16日	
10/12日～14日	
10/20日	
5/25日	雨宮21号夜桜撮影会
8/3日	ミッドナイト・ラン(車輛に電飾4便運行)・雨宮号花火撮影会
9/21日	お月見列車運行・夜間撮影会
9/23日	雨宮21号夢サービス運行(あめまる君登場)
10/6日	武利意森林鉄道廃線跡地を歩く会

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://business4.plala.or.jp/rikutetu/>

Email ginga@bz01.plala.or.jp

【営業期間】

4月下旬～10月下旬

【気動車乗車体験】

CR75（銀河鉄道 999 ラッピング列車）を使用し運行しています。

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料（構内）、中学生以上 500 円・小学生 300 円・小学生以下無料（構外）

【トロッコ体験】

足こぎ式を利用し 400m の周回コースを 1 周

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料

【気動車運転体験】

CR70・75 型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

（S コース）

女性の方でも簡単に体験できます。

料 金：2000 円

対 象 者：小学校高学年以上身長 130 cm 以上

体験運転：約 15 分間（運転・説明）

（銀河コース）

1 週間前完全予約制

※L コース体験者のみ体験可能

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：30000 円

体験時間：約 80 分間（運転）



再塗装が施された白メーテル号

平成 25 年 9 月 8 日

（L コース）

1 週間前完全予約制

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：20000 円

体験時間：約 80 分間（講習・出区点検・運転）

（銀河コースパックセット）

1 週間前完全予約制

初心者でも銀河コースを運転できるのでおススメ!!

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：50000 円

体験時間：計約 160 分間（講習・出区点検・運転）

L コース 80 分間・銀河コース 80 分間

L コースと銀河コースの体験に、2 食付の宿泊が付き 50000 円。

※今年度から銀河コース割引プランも受付開始

平成 25 年度事業経過

今年度も金澤踏切～松浦踏切間 1.3km の駅構外運行（銀河コース）が好評で、8～10 月の予約はほぼ 100% で推移しています。7 月に開催された第 5 回くべつ鉄道まつりでは列車の中から花火を楽しむ花火列車を運行致しました。また白メーテル号のラッピングを新たにし、銀河鉄道 999 の作者でもある漫画家の松本零士先生を陸別町にお招きしイベントを開催致しました。

また、今まで直線コースの往復体験であった足こぎトロッコ体験は 7 月の第 5 回くべつ鉄道まつりに合わせて 1 周 400m の周回コースに生まれ変わり大変ご好評を頂いています。



第 5 回くべつ鉄道まつり花火列車の様子

<平成 25 年度イベントスケジュール>

4 月 27 日(土) 平成 25 年度営業開始

5 月 5 日(日) GW 特別運行

7 月 21 日(日) 第 5 回くべつ鉄道まつり

8 月 10 日(土)～15 日(木) お盆特別営業

9 月 8 日(日) 松本零士先生来町記念イベント

9 月 15 日(日) 網走本線開通記念イベント

10 月 13 日(日) 鉄道の日記念運行

10 月 27 日(日) 平成 25 年度営業最終日

【 第三音更川橋いよう保全および活用事業 】について

平成21年度から行っています「第三音更川橋りょう補修のための募金」総額は平成25年6月1日現在・232件で12、563、151円になっています。（上土幌町で管理しています）皆様のご協力に心から感謝申し上げます。



【 鉄道資料館 】

当会が指定管理者制度で管理・運営している鉄道資料館の今年度の入館者は、昨年度より97名増の6367名でした。来年度は、展示物の充実やPR活動の徹底などで、より入館者を増やしていきたいと思います。



更新された走る土幌線の映像



紅葉のひがし大雪高原鉄道

【 タウシュベツ川橋梁 】

傷みが進んでおり、崩落する日が遠くないかもしれません

幻の橋 今年で見納め!?



十勝毎日新聞の記事（平成25.03.17）

【 旧国鉄士幌線 鉄道遺産スケッチコンテスト 】を実施

平成24年6月より、チラシ・HP、マスコミなどを通じてコンテストの実施をPRしました。平成25年2月に応募を受付、上土幌町内・町外から18名・23作品の応募がありました。その中から最優秀賞1点、優秀賞2点、入選9点を選定いたしました。入選作品は当会のHPや鉄道資料館・5月にオープンするひがし大雪自然館などで掲示します。



PRチラシ

最優秀賞：鈴木さん

優秀賞：梶原さん



優秀賞：西川さん



入選：斉藤さん



入選：波多野さん



鉄道資料館・来館者

皆様の書込みです

素晴らしい大自然に感動いたしました。
また来年も（別の季節に）来たいと思います。
大自然と芸術のマッチが本当に素敵です。
札幌市・樋川さん

アーチ橋保存、切望いたします
大阪府・今井さん

とても感じよい楽しい場所でした。維持管理のご苦労に感謝します。 東京都・菅原さん

一度訪ねてみたかった土幌線の廃線跡を見る
ことができて感激しました。横浜市・佐藤さん

土幌線のことを良くわかり勉強になりました。
苫小牧市・斉藤さん

初めて来ました。NHKの番組を見て、どうし
ても来たいと思いました。素敵なお所ですね。
東京都・戸辺さん

35年前、帯広～十勝三股を往復。懐かしく思
います。三股は高地を思わせました。
東京都・池田さん

きれいな鉄橋、先人の努力に感動しました。
東京都・清水さん

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 TEL 01267-2-3997 FAX 01267-2-2145 E-mail kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 TEL 01267-3-1123 FAX 01267-2-6965 E-mail tetsudoumura@s-304.com URL http://www.s-304.com/

三笠鉄道記念館では、北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所(後の新日本製鐵室蘭製作所)向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行(乗車1回300円)

運行日……4月16日から

10月14日までの土・日・祝日

※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、
休館日を除き毎日運行。

土曜………12:00始発～16:00発最終

日曜・祝日…10:00始発～16:00発最終

※30分毎の発車です。

ただし、12:30発の便はありません。



■SL機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も500人を超えました。(詳しい体験方法はホームページご参照)



■三笠トロック鉄道

幌内線の廃線を活用し、平成22年4月から運行を開始したトロック鉄道は今年も大勢のお客様に利用されており、人気のある施設です。平成24年8月より三笠鉄道記念館前まで乗り入れ可能となり、往復5.6kmの旅をお楽しみいただけます。

(<http://www.karamatsu-train.co.jp/mikasa/mtr.html>)

■イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、夏休み、秋のイベントを実施。7月に行われた「線路の灯り」では、線路沿いに並べられたおよそ1000本のろうそくの灯がとても幻想的で、光のイルミネーションの空間をSL、トロックが走り抜ける様子はとても美しい光景でした。

また、イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊 ぼっぼレンジャー」が登場します。今年8月に行われた夏のイベントでは、ぼっぼレンジャーとじゃんけん大会が行われ、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。



■ホームページでのPR

2006年にホームページを開設し、幌内鉄道の歴史や施設紹介等の掲載はもちろんのこと、スタッフ(なべっち)のブログやイベント情報など随時更新しています。

2011年より、入館促進のため入館料が割引になるクーポンページを作成。

SL機関士運転体験の参加申し込みなどもホームページから可能です。(携帯電話での閲覧に対応していませんが、右のQRコードからHPをご覧ください)



■施設整備

2012年には、食堂車両、鉄道記念館のエレベータなどの整備を行いました。

団 体 名	三菱大夕張鉄道保存会	連絡先 068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6 三菱大夕張鉄道保存会事務局 011-387-4783
-------	------------	--

○三菱大夕張鉄道について

三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域



住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ」列車は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。

○三菱大夕張鉄道保存会の活動

鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(実際に正式譲渡されたのは平成 19 年)。公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などで三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復旧工事が実施された。



その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシューパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」整備計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。

一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道の S L や関連資料を保存する、石炭の歴史村・S L 館も閉鎖され、貴重な車両・資料の解体・散逸も懸念される状態にある。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用してホーム補修も進めているが、S L 館保存の車両・資料についても、炭鉱地域独自の鉄道遺産として地域再生に活用出来るよう活動を展開しますので、皆様のご指導・ご支援願います。

主な活動内容

○保存車両公開 4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)

○汽車フェスタ 9 月上旬

○S L 館雪下ろしバスツアー 1 月下旬

○S L 館公開や廃線跡・産業遺産探訪などを組み合わせたバスツアーなどの企画

○ホームページ http://www.geocities.jp/ooyubari_rps/index.html

夕張市での連絡先 夕張市南部新光町 42 金澤洋行(保存会顧問) 0123-55-2318

団 体 名	北海道旅客鉄道株式会社	鉄道事業本部 運輸部 運用課 〒060-8644 北海道札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 TEL 011-700-5785 FAX 011-700-5786
--------------	--------------------	---

今年もSL函館大沼号・SLニセコ号などを運行！

弊社では、平成 11・12 年に C11 形蒸気機関車 2 両(C11 171、C11 207)を復元し、一年を通じて北海道の大自然や文化・歴史を堪能していただける各種観光・イベント列車として運行しています。

今年度も各方面で SL 運行を計画しており、毎年恒例となっている SL 函館大沼号や SL ニセコ号のほか、今年もオホーツク海沿いを走る SL オホーツク号の運行を行いました。その雄姿を一目見ようと、駅や沿線には地元の方をはじめ鉄道ファンが詰め掛け大きな歓声が上がっていました。

C11 形蒸気機関車 2 両は、車齢も高く復元後も 10 年以上経過していますので、これまで以上にきめ細かなメンテナンスを行いながら今後も運行を継続させ、多くの皆様に満足していただき喜んでいただけるよう努めて参ります。

平成 25 年度 SL 列車運行計画

○SL 函館大沼号

函館本線(函館～森)

・4/27～5/6、7/13～21 の土・日・祝日、7/27～8/4

○SL オホーツク号

石北本線・釧網本線(北見～知床斜里)

・6/22、23

○SL ニセコ号

函館本線(札幌～蘭越)

・9/14～11/4 の土・日・祝日



○11 月以降につきましても「SL 冬の湿原号」等の運行を計画しています。

運行が決まりましたら、弊社ホームページ(<http://www.jrhokkaido.co.jp/>)に掲載しますのでご確認ください。＊運転日は変更となる場合があります

団 体 名	NPO 法人北海道鉄道文化保存会	〒番号 047-0041 北海道小樽市手宮 1 丁目 3 番 6 号 小樽市総合博物館内 TEL0134-61-7777 E-mail zeromaile-hozonnkai@tempo.ocn.ne.jp
-------	------------------	--

平成 25 年主な行事

1) 春の野外展示車両の清掃（小樽市総合博物館収蔵） 4 月 20(土),21(日)

長い冬も終わり、冬の間雪を冠って眠っていた野外展示車両を、
鉄道保存会の有志に市民も加わり清掃。



2) 野外展示車両の補修作業（小樽市総合博物館収車両） 4 月 27 日～

毎年続けて行っている車両補修。今年の対象車両は

- ED75591
- オエ 61-救援車
- オハフ 33-緩急車
- キハ 22-56



3) ジュニアのための夏休み SL 講座 小樽市総合博物館の蒸気機関車を知ろう！

7 月 27(土)、28(日) 10 時～11 時

小樽市総合博物館の野外展示されている実物の SLC55 型を
見ながら、走る仕組みや、メカニズムなどを分かり易く解説。



4) 手宮棧橋跡の海底調査 9 月 6 日(金)

義経号、弁慶号を運んだトベイ号を受け入れ、北海道で初めての鉄道の出発点となった
手宮棧橋跡を確認、位置を確定する海底調査を行った。

5) 《おたる レールカーニバル in 手宮》会期:9 月 14(土),15(日),16(敬老の日)

21(土),22(日),23(秋分の日)

北海道で最初に通した手宮に残る廃線跡(小樽総合博物館手宮口向かいから長橋通)を会
場に、廃線跡の活用による手宮地区の活性化を探ろうと、①レールチャリ運行(線路上に
マウンテンバイクを走らせる)。又、余白空間を利用し、②カフェ、バザー、③ステージを
設け、市内の中学・高校5校による吹奏楽部の、日替わり演奏会など、元気なイベントを
開催。



6) 第3回 北海道の鉄道開通記念誕生会

11 月 28 日(木)

北海道の鉄道開通(手宮一札幌)開通 130 を期に開催を機に、市民有志も加わり開通
記念日を祝った。

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂町観光産業課観光商工班気付）
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古館48-2
Tel 0186-29-3908 Fax 0186-29-3728

小坂鉄道レールパーク・プレオープン（10月13日・14日）
“小坂・鉄道まつり2013” 体験運転を初めて実施!!

日本近代化のさきがけといわれる小坂町で、“観る”、“学ぶ”、“体験する”観光施設をめざして整備が進む旧小坂鉄道小坂駅が、「小坂鉄道レールパーク」の名称でプレオープン。記念イベントとして開催された「小坂・鉄道まつり2013」には、鉄道ファンや家族連れなど多くのお客様にご来場いただき、ディーゼル機関車体験運転のほか様々な催し物を楽しんでいただきました。

主催は『小坂鉄道』鉄道の日イベント実行委員会(町共催)。今年6月9日に設立した小坂鉄道保存会の母体となった団体です。当日は、小坂鉄道保存会会員や役場職員らが担い手となり、記念のまつりを盛り上げました。



(上 段) オープニングセレモニーで除幕式

(中段左) 記念の硬券をパチン

(中段右) 真剣な眼差しで指導を受ける運転体験受講者の皆さん

(下段左) 模型ジオラマでトレインスコープを楽しむ子どもたち

(下段右) 観光トロッコも大人気



団体名	真岡線SL運行協議会	〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷4412番地 TEL 0285(82)9151 FAX 0285(82)9152
-----	------------	---



▲9600形の
自走を見守る来場者

「SLもおか」2013冬・運行日程

【運行日】	11月 2日・3日・4日・9日・10日・16日 17日・23日・24日・30日 12月 1日・7日・8日・14日・15日・21日 22日・23日 1月 4日・5日・11日・12日・13日・18日 19日・25日・26日
【運行区間】	真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
【運行時間】	下り 下館駅10:36発～茂木駅12:06着 上り 茂木駅14:27発～下館駅15:58着
【運行車両】	SL C12形66号 C11形325号 PC オハ2両、オハフ1両 DL DE10 1535 1両

〔近況報告〕

◆4月28日SLキューロク館開館記念式典

平成25年4月28日、真岡駅にSLキューロク館がオープンしました。日本で唯一、「9600形」の自走を見ることができる施設ということもあり、約3万5000人が訪れました。

この日は開館式典のほか、地元自治会や真岡市の御輿や山車が披露された他、県内のゆるキャラが集まり、会場は盛り上がりを見せていました。

キューロク館には、旧型客車の「スハフ44形」や昭和63年まで真岡線で活躍していた「キハ20形」が展示され、車内の見学もできるようになっています。

また、キューロク館一番の目玉であった「9600形」の自走は5回行われ、各回とも大勢の来場者に見守られながら、大きな汽笛を鳴らして運行しました。



↑オープニングセレモニーの一場面

◆100周年記念イベントの開催

昨年度に引き続き、今年度は7月11日（木）に真岡七井駅間が開通100周年を迎えました。

7月14日（日）、七井駅で開通記念式典が行われた他、夏休みには毎年好評のSLイベント（SL教室・SLガイド体験・こどもぼうけん列車・お猿さん列車）を実施し、これからSLハロウィン号や吹奏楽inコットンウェイ等を開催します。

夏休み期間中のイベントは主な対象を小学生以下とし、実施日にはたくさんの小学生にSLもおかへの乗車、イベントに参加していただきました。特にSLガイド体験では、暑い中で車掌さんのお手伝いとしてアナウンス等の業務を体験してもらいました。今年度は、沿線自治体と共催したイベントが多く実施されました。

H25 SLイベント実施表

4.28	SLキューロク館開館式典
5.3	下館駅なか・駅まえフェスティバル
7.14	真岡七井駅間開通100周年イベント
7.20～8.25	夏休みイベント (SL教室・ガイド体験・夜行列車etc)
10.19	SLハロウィン号
11.3	吹奏楽 in コットンウェイ
12.21～22	SLサントレイン2013

◆平成25年11月17日、第4回真岡鐵道SLフェスタ開催！

過去3回開催し好評を博した「真岡鐵道SLフェスタ」を今年も開催いたします！

内容はまだ未定ですが、楽しいイベント盛りだくさんで開催する予定となっております。沿線の方や真岡鐵道ファンの皆様、そしてSLファンの方のお越しをお待ちしております。

(団体名)

けいてつ協会

(連絡先)

TEL/FAX : 0288-93-3403

〒321-1523 日光市足尾町松原 12-5(せんろ商会内)

ホームページ <http://ashiorekishikan.com>

今年度より新たに、正会員となりました「けいてつ協会」です。

鉄道趣味の世界は奥が深いもので、特急列車や蒸気機関車を追いかけている人。またはキップを収集したり、各地の駅弁の食べ歩きを楽しむ人。とにかく鉄道という乗物で移動して旅行するのが好きな人...などなど、その楽しみ方は千差万別といって良いでしょう。いろいろな鉄道の楽しみ方があるなか、主にナローゲージ(狭軌鉄道)を中心として実物(車両・線路・その他)の保存・研究・調査を目的として1994年に旗揚げしたのが“けいてつ協会”です。けいてつ協会の「け・い・て・つ」とは、その昔、田舎の小さな駅から出ている軽便鉄道(けいべんてつどう)と呼ばれる小さな鉄道の呼び名を多少アレンジして付けたのが当協会の名前です。

現在は、各地の保存鉄道等にボランティアする一方で、ホームグラウンドとして活動させて頂いております、栃木県日光市にありますNPO法人「足尾歴史館」にて、地元で走っていた鉾山トロッコ列車を復元した“ガソリンカー”と呼ばれる軌間610mmの軌道の運行をお手伝いしながら、当会の車両たちを置かせて頂き、修理・整備を続けております。

足尾歴史館の活動は、主に毎年4月～11月末日までの間。毎月第一土・日曜日のガソリンカーの運行と共に、メンバーが集まり、活動しております。

最近の話題では、軌間610mmの森製作所製4tガソリン機関車の最終整備がおこなわれ、昨年度に岩手県の花巻市にあります(株)伊藤組より寄贈頂いた3台のガソリン機関車のうち、フリクションドライブという珍しい変速装置を持つ、三重県四日市の米川鉄工所製の4tガソリン機関車のエンジン修理が完了し、稼働状態となりました。

今後も、各地から捨てられたり、行き場のない“トロッコ”たちを集めて、整備・展示するボランティア活動を続けます。

(活動場所) NPO 法人 足尾歴史館

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 営業時間 10:00～16:00

入場料 大人(高校生以上)350円・子供(中学生まで)250円

所在地 栃木県日光市足尾町松原 2825 問合せ TEL0288-93-0189

交通

■鉄道 わたらせ渓谷鐵道「通洞駅」下車徒歩5分

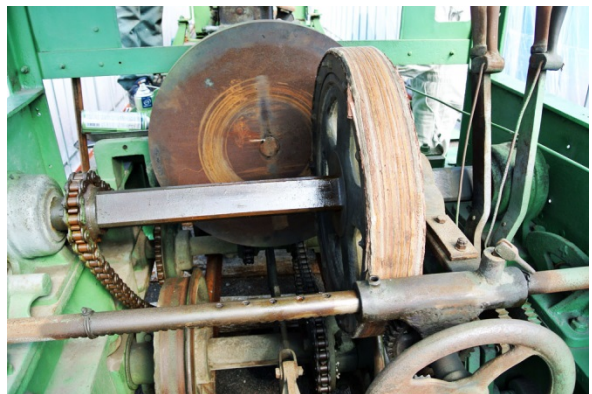
■バス 日光市営バス「銅山観光入口」下車徒歩5分 問合せ TEL0288-93-3113

東武日光・JR日光駅から約35分(1日6往復)

※毎年11月末より翌年の4月1日まで冬季閉鎖



野外展示場「足尾ガソリン軌道歴史館線」を走る、大正時代から昭和29年まで街中を走ったガソリンカーを再現したトロッコ列車



フリクションドライブ(摩擦伝導装置)という珍しい変速機を持つ米川鉄工所製のガソリン機関車は、修理した結果、動態保存機になりました

団体名	鹿島鉄道保存会	〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル11階 (株)パレア内 TEL 03-5802-2755 FAX 03-3818-2700 E-mail info@kashitetsu.com URL https://www.facebook.com/kashitetsu
-----	---------	--

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～鉾田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。



<鹿島鉄道記念館について>

鹿島鉄道の存続運動に取り組んできたメンバー(鹿島鉄道を守る会、かしてつ応援団、かしてつブルーバンドプロジェクト実行委員会等)有志にて、平成18年12月24日の廃線確定後、何らかの形で、鹿島鉄道が沿線地域の足として歴史的使命を果たしてきた史実を後世に伝えたいと話合ってきました。本来は自治体等が行なうべき事業ですが、誰かがやらない限り実現が不可能なのが「現実」である点を踏まえた上での共通認識に基づく構想の始まりでした。廃線後の車両や施設の撤去・解体まで時間的な余裕がなかったため、「鹿島鉄道存続再生ネットワーク」が鹿島鉄道対策協議会での事業者公募に応じる際に構想した「株式会社霞ヶ浦市民鉄道」に出資を予定していた個人の資金を原資として、現在地に廃線の翌日に土地(450坪)を購入。平成19年4月29日にキハ714とKR501の車両2両を搬入。同年5月20日に玉里駅上りホーム待合室を移送後、記念館の設計及び建築がスタートしました。また、鉾田駅構内に留置されていたキハ431を救済保存することになり、平成20年1月26日に搬入しました。

平成20年3月の建物落成後、週末毎に時間のある保存会メンバーが集まり、所蔵品の陳列や写真展示など、手作りの整備を開始し、平成21年4月19日に第1回目の一般公開(事前申込制、参加費無料)を実施、これまでに3回実施したほか、見学希望の団体向けに特別公開を随時実施しています。

平成24年3月11日には、かしてつ沿線地域公共交通戦略会議主催のイベント「懐かしのボンネットバスでバス専用道を走ろう!」に共催、同年11月4日には、沿岸バス主催旅行「がんばれ茨城! 応援バスツアー」を受け入れて特別公開を実施しました。

今後の一般公開は未定ですが、決定次第、当会Facebookページ等でご案内いたします。



団体名

鉾田駅保存会

〒310-0001

茨城県鉾田市当間220ほっとパーク鉾田

TEL029-239-6735

e-mail: hokota-station@rail.nifty.com

URL: <http://homepage3.nifty.com/hokota-station/>

2007年3月31日に廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車、キハ601とKR-505の保存活動を、2両が保存活動を、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』で行っています。

2012年度は、車両の塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しました。

2013年度も、車両の塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しています。

当会が保存活動を行っている、鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

我々鉾田駅保存会は、賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動を実施していました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において2両の保存することになり、鉾田駅の保存車両は、2008年12月24日に鉾田駅から『ほっとパーク鉾田』に移送されました。



キハ601とKR-505



東日本大震災被害の復旧作業

月例の定期公開では、保存活動の周知と、鹿島鉄道を知らない年少世代への記憶の継承を目的に、下記の様な企画を行っています。

- (1) KR-505車内でのプラレール遊び
- (2) キハ601車内での鉄道模型展示・運転(N・HOゲージ 鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等)
- (3) 5インチ乗用鉄道の体験乗車(16m直線又は16m×10mオーバル)
- (4) 鉾田駅保存会製作のグッズの販売
- (5) 鹿島鉄道関連書籍の展示
- (6) 記念入場券の無料配布
- (7) 保存活動内容の展示

また、鉾田市主催の『鉾田うまかつフェスタ』や『ほこたマラソン』などの地域行事に参加・協力しています。

車両が保存されている鉾田市当間では、東日本大震災と、その約30分後に至近の鹿島灘で発生した余震により、二度の震度6強の揺れに襲われ、地盤の液状化が発生し展示線のレールは波打ち、展示車両は傾斜し、接地しました。キハ601の冷却機の一部は車体とせり上がったレールの間に挟まれ破損し、冷却油が漏洩しました。また、冷却油配管が変速機用と機関用の双方とも破損・変形しました。現在、冷却機の復旧にむけ、方法や予算について検討中です。KR-505は、機関不調のため点検を行ない、燃料配管の不具合が判明し、今年度中の機関の再起動を目指し、復旧作業中です。

団体名 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団

〒379-0301

群馬県安中市松井田町横川407-16

TEL 027-380-4163

e-mail bunkamura@usuitouge.com

URL <http://www.usuitouge.com/bunkamura/>

碓氷峠鉄道文化むらは群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を信越本線経由で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、群馬県・旧松井田町・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンしました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早16年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月の毎日、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の体験運転も約2,336人が受講されています。平成24年度は167名の受講者（男性162名・女性5名）があり、のべ2,612回の体験を楽しめました。また、1人で通算679回の運転者も出現しております。25年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

公益法人制度改革により、当財団は一般財団法人へ移行いたしました。



イベントでのあさま号との綱引き大会



トロッコ列車シェルパ君出発式

団体名

デハ3499号車保存会

http://www.mc-tc.net/3499_report/

■事務局

331-0802

埼玉県さいたま市北区本郷町313 C-3

■車輛設置場所

371-0102

群馬県前橋市富士見町皆沢315-16

■メールアドレス

moha565_deha3499@mc-tc.net

■デハ3499について

デハ3499は、東京急行電鉄(東急)の前身目黒蒲田電鉄・東京横浜電鉄が共同発注したモハ510形の最終番号モハ565として、1936年(昭和11年)に神戸の川崎車両製造で製造されました。モハ510形は50両という、私鉄電車としては単一形式の戦前最多量産記録を持っています。鉄道敷設と宅地開発を一体的に進める事業を生涯かけて邁進した東急総帥五島慶太の、事業に賭ける意気込みの一端を垣間見るものだと思います。

大東急併合に伴い、デハ3450形3499となり、戦後の更新修繕で「見た目の」木部が無くなり、窓が100mm拡大されるなど、印象はかなり変わりましたが、両運転台構造はそのまま保持され、検査代車として目蒲・池上線等で旅客営業したり、こどもの国線休園日単行運転、貨物列車や回送列車の牽引等、縁の下の力持ちともいべき幅広い活躍を見せた車両でもあります。

現在使用されているTQQ-にとデヤ7500系事業用電車はデハ3499の直系の「孫」ともいべきものですし、奇しくも現設置場所から程遠からぬ、上毛電気鉄道大胡列車区にて動態保存されているデキ3021号電気機関車は、デハ3499にとって営業・事業用貨物列車や回送列車等の牽引や入換等、互いに長きに渡り共に東急線の裏方を支えた、僚友同士ともいべき存在です。

1989年の3000系列営業運転引退後、デハ3499は架線検測車デヤ3001と共に牽引・入換用等の事業用に専念しますが、田園都市線ATC化に伴い、1992年の「東急70周年記念電車」での(旧)目蒲線におけるイベント運行を事実上のさよなら運転として、翌93年除籍、東急車輛製造に譲渡され、金沢八景-京急神武寺間における新車搬出等の牽引車として活躍しました。2002年に同じく東急から7000系譲渡に伴い引退、その後は工場敷地の一角に保管されていました。



■保存の経緯

2010年3月、デハ3499の解体について弊社代表者が偶然耳にする機会があり、急遽(旧)東急車輛製造様に対し譲渡の打診を行い、その根拠として本車を受け入れ、保存するための手筈を整えることとなりました。情報が入った段階で解体まで1週間しかなく、一時は絶望的かと思われましたが、幸い、土地及び輸送費についても、かなり無理な負担があったとはいえ目途が立ち、解体予定日前日に解体中止及び正式な譲渡申し入れ、同6月に私たち自身の手で軌道敷設、同8月に関東平野を縦断し、3日をかけて群馬県赤城南麓の現所在地へと搬入しました。

■保存の意義と方針

保存に至った原動力として、「愛好者」としての趣味的観点の一方で、デハ3450形という電車が戦前の目蒲・東横線、戦後の田園都市線という、電車網を骨格とした東京郊外発展の、伸るか反るかの黎明期を支えた存在であることは疑いようのない事実であり、「開発」の2文字を背負ったこの電車を、社会的・技術的・文化的なあらゆる面を通じ後世に伝承することを保存の最大意義と考えています。すなわち、私共はデハ3499を、欧米で一般的に言われる「ミュージアムカー」と位置付けています。また、電車は誰の財産的所有であろうと社会的公器であり、私共は電車を社会からお預かりしていると考えますので、可能な限りの公開を行いたいものの、通常無人ゆえ盗難や破損に対する不安は払拭できないものがあります。幸い、設置後3年を経て、故意の破損や盗難等は全く発生していません。レストア活動をするにあたり、目標設定年代を1980年代半ばごろ、営業運転に使われた最末期とし、最終的にはドアステッカーや吊り広告等も含め、営業運転当時の世情世相等まで回顧できるようにする一方、高圧系・走り装置系以外の低圧電源系や空気系機器(灯具類、ドア、パンタ、ブレーキ、警笛など)はできる限り復活させたいと考えています。



■現車の状態と修繕活動

元来、戦前製の電車だけあって、基本構造が非常にしっかりしておりますが、海に比較的近い場所に所在していたこともあって塩害と思われる外板裾や屋根の腐食が酷く、パテ等で「誤魔化す」ことも無理とみて応急処置に留め、長く本格的な修繕に至りませんでした。昨年秋ごろより切り継ぎ溶接等について、材料や機材、技術等に関して目途が立ち始め、現在順次作業を進めております。幸い、本職の車両検修従事者や、板金溶接等を得意とする人、あるいは手先を扱う模型のプロ、博物館や文化財行政等に関わる者など、メンバーのバランスが取れ、また先輩団体各位のご指導も賜り、以前に比べればかなり物事が動くようになりました。来年のなるべく早い段階に、ライトグリーン塗装まで持ち込みたい一方、溶接から下地処理まで、入念に行いたい意志を持つ者も多く、余暇を利用したボランティア活動ゆえに、良くも悪くもジレンマになっている点といえます。

■活動日とアクセス

原則第三土曜日を公開活動日とし、その他随時実施しています。

前橋駅前6番バス乗り場より

赤城山ビジターセンター行 龍の口下車徒歩10分

赤城青少年交流の家行(夏季のみ) 総合グランド下車すぐ

団体名

日本工業大学 工業技術博物館

345-8501

埼玉県 南埼玉郡 宮代町 学園台 4-1

Tel. 0480-34-4111 (大学代表)

Fax. 0480-33-7570 (博物館直通)



製造されて117年、疾走する2109号蒸気機関車の勇姿

2013年の運転について

1993年9月に大井川鉄道より本学に寄贈され、年に2度の洗缶作業を行い、2007年度にボイラー煙管172本とステー管16本を交換して、動態保存を実施している。昨年度の右側シリンダーの補修作業後の有火運転も無事に再開している。

2109号蒸気機関車を、原則として8月と12月を除く毎月第3土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。写真にキャンパス内で運転中の様子を示す。

このほかにも学園祭等のイベント時にも有火運転を行っており、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。

また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

今後の運転予定

平成25年度 2109号蒸気機関車 有火運転実施日

5月18日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
6月15日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
7月14日(土)	定期運転	(12:30~15:00)
9月21日(土)	定期運転	(13:00~15:00)

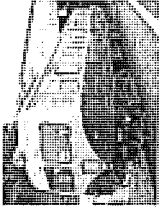
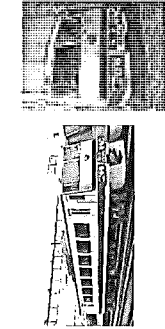
平成25年度 2109号蒸気機関車 有火運転予定日

10月19日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
11月 2日(土)	大学祭・ホームカミングデー	(12:00~15:00)
11月 3日(土)	大学祭	(13:00~15:00)
11月16日(土)	臨時	(13:30~15:00)
2月15日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
3月15日(土)	定期運転	(13:00~15:00)

(平成25年 9月30日現在)

団 体 名	秩父鉄道株式会社	〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1 丁目 1 番地 TEL048-523-3337 fax048-526-0551
		2012 年 8 月の故障により運休していた秩父鉄道 SL 列車「パレオエクスプレス」は 2013 年 3 月 20 日より運行再開しました。 本年の運行は 12 月 8 日までに 110 回を予定しており、10 月 18 日には運行 2100 回を記念した運行を行い、例年通り 12 月 3 日の秩父夜祭りに合わせてヘッドマークを掲出して SL 秩父夜祭り号を予定しております。 今後の予定 11 月 14 日 SL 県民の日号 日章旗及びヘッドマークを取付けて運行。各停車駅（長瀬駅を除く）にはゆるキャラが登場 12 月 3 日 秩父夜祭り号
秩父鉄道に於いて昭和 61 年 3 月より使用開始した 1000 系ですが、平成 26 年 3 月までにすべて廃車・代替えになります。これに伴い、8 月 17、31 日に 1001F と 1003F を連結し 6 両にて熊谷⇄三峰口間の臨時貸切列車を運行いたしました。また、10 月 12 日には 1001F と 1010F 連結による臨時列車を運行いたします。 平成 25 年 5 月 18 日～6 月 30 日の期間において C58363 号機の除煙板(デフレクタ)を静態保存している C58 33 号機をモデルに再現した除煙板(JNR マーク付き)を作成し取付けて運行いたしました。		
		

団体名	西武鉄道株式会社 池袋線車両所 横瀬車両基地	連絡先 〒357-0083 埼玉県飯能市飯能937-1 池袋線車両所 武蔵丘車両基地
◇ 車両基地の概要	1970年(昭和45年)1月、西武秩父線開業を受け電気機関車・貨車専用基地として埼玉県横瀬町に開設。その後所沢検車区の支区となったが、1989年(平成元年)9月に所沢車両管理所の廃止により、業務を統合して横瀬車両管理所となった。 開設当初は武甲山から採掘される石灰石を原料とするセメント輸送が盛んであったが、トラック輸送への転換でセメント輸送は1996年(平成8年)3月末に廃止となり、バラスト輸送のためのE31形電気機関車と貨車を残すのみとなった。2008年(平成20年)7月に機関車によるバラスト輸送が廃止となり、機関車は甲種車両輸送で活躍するだけとなった。2010年(平成22年)3月にE31形電気機関車も廃車となり、西武鉄道における電気機関車の歴史も幕を閉じた。E31形電気機関車はその後3両が大井川鉄道へ譲渡となり、第二の活躍の場を得ることができた。	◇ 保存車両 横瀬車両基地には電気機関車6両(E43・E52・E61・E71・E31・E854)、特急レイト7mを含む電車3両(7両355・7両5503・7両1224)および5000系前頭部(7両5504)が静態保存されている。また、旧保谷車両基地には蒸気機関車(5号)と電気機関車(E11)が静態保存されており、2012年には100年アニバーサリーイベントとして修復されて公開された。以下、横瀬車両基地に保存されている車両を紹介する。



<5000系 7両5503>

1969年(昭和44年)10月の西武秩父線開業に合わせ新造された特急車両。4両編成で新製され最終的には前編成6両編成となった。最後に廃車された5503編成の両先頭車2両が静態保存となった。

<7両351形 7両355>

1954年(昭和29年)から1956年(昭和31年)にかけて新製された17m級の小型車体車両。1990年(平成2年)6月廃車となった。

<101系 7両1224>

1969年(昭和44年)の西武秩父線開業に合わせて山岳路線を走行するための高出力・高ブレーキ性能の車両として登場。登場時は「ASカー(All round Service Car)」とも称された。1976年(昭和51年)までに4両編成50本(200両)と6両編成13本(78両)の計278両が新製された。

<E31形 E31>

1986年(昭和61年)から翌1987年(昭和62年)にかけて西武鉄道所沢車両工場にて4両が製造された小型直流用電気機関車外観は西武鉄道の在来大型機関車であるE851型のデザインラインを継承している。

<E61形 E61>

1923年(大正12年)鉄道省がアメリカのゼネラル・エレクトリック社より輸入した。車体は箱型で、その前後にデッキを有しており屋根上には2基のパンタグラフを設けており、同時期に輸入されたイギリス製に比べ無骨さは影を潜めている。

<E851形 E854>

1969年(昭和44年)の西武秩父線開通に際して、秩父方面から正丸峠を越えてセメント輸送列車が運行されることとなり、民鉄最大級の機関車として三菱重工業(車体)及び三菱電機(電気機器)において4両が製造された。

<E71形 E71>

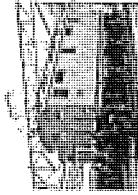
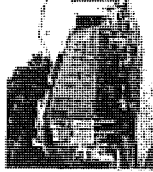
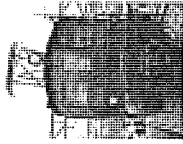
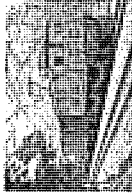
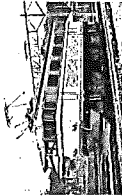
1925年(大正14年)アメリカのウェスチングハウス・エレクトリック社(車体・電気品)及びボールドウィン社(機械類)で製造された。現在は国鉄時代の塗装に復元、ナンバーもED10に戻されている。

<E51形 E52>

1923年(大正12年)スイスのブラウンボベリ社及びロコモティブ・アンド・マシナワークスで共同製造された。車体はスイスの機関車らしく全体的に角の取れたデザインとなっていて、パンタグラフ集電棒が1本しかないのが特徴である。

<E41形 E43>

1926年(大正15年)から1929年(昭和4年)にかけてイギリスのイングリッシュ・エレクトリック社にて製造された。前後にデッキを備えた箱型車体で、正面窓に対して乗務員室窓が向って左側にオフセットされた配置が独特である。デッキは台車が車体前後へ張り出したその上に設置されている。



団体名 公益財団法人東日本鉄道文化財団

館名 鉄道博物館 (THE RAILWAY MUSEUM)

【所在地】〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町 3-47

【TEL】048-651-0088 【FAX】048-651-0570 【URL】<http://www.railway-museum.jp/>

【沿革】2007(平成 19)年 10 月 14 日開館

【お知らせ】

●第 9 回特別企画展「越境のドラマ! ～峠を越える鉄道の物語～」を開催中

信越本線横川～軽井沢間がアプト式で開業して 120 年、そのアプト式が廃止されて 50 年にちなみ、信越本線や上越線などの山越え路線の歴史、鉄道が開通したことによる地域の変化、山を越えるためのさまざまな技術的工夫等について紹介する企画展を開催しております。

会期 2013 (平成 25) 年 10 月 12 日 (土) ～2014 年 1 月 13 日 (月・祝)

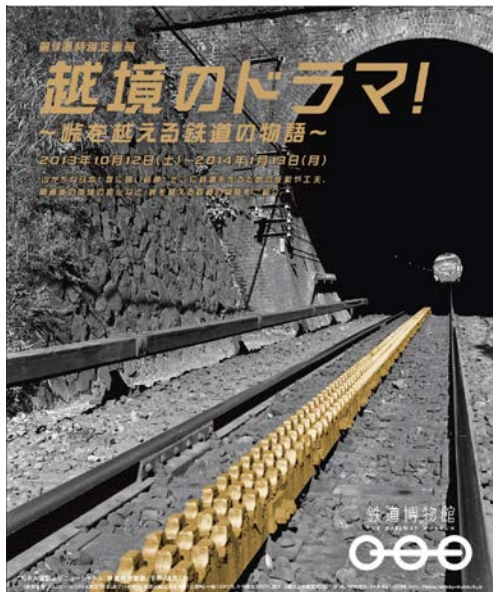
会場 鉄道博物館 2F スペシャルギャラリー1・2

●「マーチエキュート神田万世橋」オープン

中央線神田～お茶の水間にある、万世橋高架橋が 2013 (平成 25) 年 9 月 14 日に「マーチエキュート神田万世橋」として生まれ変わりました。旧万世橋駅の開業時 (明治 45 年) に作られた階段やホーム部分を当財団が整備し、公開しております。ホーム上にはガラスに囲まれた展望カフェもオープンし、すぐ両脇を走る中央線を見ながらくつろぎのひとときを楽しむことができます。

階段・デッキ 公開時間 11:00～22:30 (日祝 20:30)

※営業時間等の詳細はマーチエキュート神田万世橋のホームページをご覧ください。 <http://www.maach-ecute.jp/>



▲「越境のドラマ! ～峠を越える鉄道の物語～」



▲マーチエキュート神田万世橋

【活動状況等】

●企画展等

第 5 回コレクション展「模型でたどる鉄道史～1 号機関車から“スーパーこまち”まで」を実施

(開催期間: 2013 (平成 25) 年 3 月 9 日～6 月 10 日)

当館所蔵の大型精密模型約 200 両の中から、開館以降、未公開であったものも含め、館内に収蔵している車両模型を一堂に集めたコレクション展を開催しました。多くの車両模型を間近で見られるようにするだけでなく、車両の特徴や仕組み、歴史的変遷などをわかりやすく理解できるようご紹介しました。

●英国国立鉄道博物館との姉妹館提携を締結

2012 (平成 25) 年 12 月 19 日、当館は英国国立鉄道博物館 (National Railway Museum) と姉妹館提携を締結しました。相互の交流をはかってまいります。

●「動態保存車両「キハ 11 形式気動車」のエンジン始動! 運転室&車両公開」を実施

(開催期間: 2013 (平成 25) 年 5 月 3 日(金)・4 日(土)・5 日(日))

館内で唯一動態保存しているキハ 11 形式気動車の運転室と車内を公開し、運転席でエンジン操作を体験できるイベントを開催しました。

団 体 名	一般財団法人 東武博物館	〒131-0032 東京都墨田区東向島 4-28-16 T E X 03-3614-8811 F A X 03-3614-8814 http://www.tobu.co.jp/museum
-------	--------------	---

○ 2013年度 活動計画

昨年度、昭和38年から50年間、東武鉄道の通勤通学輸送を支え続け、最大車両数712両を誇った8000系の8111号6両編成の動態保存を行いました。今年度は、8000系8101号編成の乗務員室機器類、客室内部品、パンタグラフ、台車、制御器等を博物館内に展示する予定です。



野田市～柏間開通100周年記念のヘッドマークをつけて走る8000系8101号編成 2013年7月 豊春～八木崎間

施設概要 さまざまなアプローチから鉄道の魅力を堪能できる博物館。12両の実物車両を保存展示しているほか、実際に作動させて楽しむ展示物も多数あります。迫力のフルハイビジョン映像で運転体験のできるシミュレータは3台。運転コースは日替わりで設定しています。また、ジオラマ上で模型電車を走らせることのできる実物の運転席も4台あります。さらに、汽笛を鳴らしながら車輪を回転させるSLショー、約150両の模型電車が関東平野をイメージした巨大ジオラマを走り抜けるパノラマショーも必見です。

開館時間：10：00～16：30（入館は16：00まで）

休 館 日：毎週月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）

年末年始（12／29～1／3）

入 館 料：おとな200円／こども（4歳から中学生まで）100円

交通案内：東武スカイツリーライン東向島駅下車（駅のとなり）

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト 	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-6380-8511 FAX 03-3237-1190
-----	---	---



○2013 年「トラストトレイン」運転日

4 月 20 日（土）、6 月 16 日（日）、7 月 6 日（土）、8 月 24 日（土）、10 月 13 日（日） 計 5 回

※8 月 24 日は「親子ボランティア」を開催

〔区間〕

大井川鐵道 新金谷 — 千頭間（37.2km）

〔保有車両の編成〕

スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車、C12 形タンク式蒸気機関車

〔運行時間〕

新金谷駅 11:45 発→千頭駅 13:06 着

千頭駅 14:50 発→新金谷駅 16:10 着

【近況報告】

○「親子ボランティア」の開催

8 月 24 日は、通常の運転日ボランティアに加えて「親子ボランティア」を開催予定でした。しかし、連日の猛暑を警戒してか、お子様の参加申し込みがなく、大人だけの「親子ボランティア」となりました。通常の運転日ボランティア作業と同様に SL の車体磨きやプレート磨き、客車内の清掃を行ったのに加えて、千頭駅での転写回し体験を行いました。

少ない人数ではありましたが、SL や客車に触れ、普段は体験できない転車台回しもできて参加者は大満足のようなのでした。次回の運転日も参加したいと言ってくれる参加者の方もいて、充実した一日となりました。

○「SL フェスタ 2013」にトラストトレインが登場

10 月 11～13 日に開催された「SL フェスタ 2013」にトラストトレインが登場！普段の運転日では SL にけん引されている客車が EL にけん引され、お客様を運びました。きれいに塗り直された C12 は、新金谷駅の転車台でお客様をお迎えし、「SL と綱引きで勝負」では、お子様連れのお客様も多く、大いに賑わいました。

※ボランティア募集※

トラストトレインでは皆様のボランティア活動へのご参加をお待ちしております！！

団体名 公益財団法人交通協力会

100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号 電話 03 6269 9808 FAX 03 6269 9809

沿革

当会の源流は大戦中の 1943(昭和 18)年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。それまで民間企業に依存していた鉄道関係の新聞、雑誌、書籍の刊行が紙の統制のため困難となったという事情が背景にありました。同年 4 月、現在の交通新聞の前身である陸輸新報の刊行が始まり、各種の雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は会の名称を財団法人交通協力会と改め、陸輸新報も「交通新聞」と改称し、「交通年鑑」と「交通技術」誌を発刊し、1949(昭和 24)年、公共企業体日本国有鉄道の発足とともに、「国有鉄道」、「国鉄線」の両誌を発刊しました。これらの雑誌はいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄分割・民営化まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した「鉄道辞典」や百周年記念に国鉄が編纂した「日本国有鉄道百年史」も、同会が刊行しました。1987(昭和 62)年の国鉄改革にあたり、新聞雑誌の刊行と書籍出版の事業は新たに設立した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011(平成 23)年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

当会では、国鉄時代に刊行した年鑑や雑誌類を電子復刻し、電子図書館で閲覧できるようにしております。現在までに「交通年鑑」、「日本国有鉄道監査報告書」、「国有鉄道」、「交通技術」、「鉄道辞典」が全冊収蔵されており、引き続き「国鉄線」、「日本国有鉄道百年史」などを収蔵する予定です。当会ホームページ <http://transport.or.jp> を開き、電子図書館にアクセスして ID とパスワードを入手すると、無料で閲覧できます。

鉄道史資料調査センター

わが国の鉄道は 9 年後に創業 150 年を迎えます。これまでに創業 50 年を記念して鉄道省が「日本鉄道史」上中下三篇、100 年を記念して日本国有鉄道が「日本国有鉄道百年史」(本冊 14 巻のほか、通史、年表、索引、写真史など全 19 巻)を編纂・刊行しています。創業 150 年は、新しい歴史編纂の好機になるものと思われませんが、国鉄改革から 25 年を経た今日、とりわけ旧国鉄時代の資料の発掘、整理、保存は喫緊の課題となっています。当会は鉄道史資料調査センターを設置し、専任の研究者によって、国の内外に存在する資料・文献などの所在確認と目録作成、鉄道 OB など個人蔵資料の発掘と収集・保存、旧国鉄幹部等のオーラルヒストリー作成、などの調査・研究活動を行っています。



団体名	神奈川新聞社 「横浜市電 1156 号修復プロジェクト」	〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部・齊藤大起(さいとう・ひろき) 携帯電話:090(9015)3707 メール:hi-saito@kanagawa-shimbun.jp ウェブサイト「カナロコ鉄道ノート」: http://railroad.kanaloco.jp/
-----	---------------------------------	---

【団体の趣旨】

横浜市港南・磯子区の久良岐(くらぎ)公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を、修復・維持するとともに、昨年 4 月から一般公開イベントを開催しています。

1156 号は横浜市電 1150 号型の最後の現存車であり、1972 年に全廃された横浜市電の保存車両の中でも、貴重な存在です。「街に市電が走っていたころ」を伝える貴重な遺産と位置づけ、横浜市や地元企業、市民の皆さんと協力しながら、後世に伝えるべく活動しています。

【保存の経緯】

2010 年末、神奈川新聞の鉄道好き記者が「1156 号解体」の知らせを聞き、横浜市にボランティアによる修復を申し出たことがきっかけです。その後、同公園近くの塗装業「サクラ」が、地域貢献の一環として修復作業に全面的に協力してくれることになり、2011 年 11 月、1156 号の所有者である横浜市環境創造局、株式会社サクラ、神奈川新聞社の 3 者が、市電保存に関する「覚書」を締結しました。また、相模鉄道には、座席シートなどの部品を、無償でご提供いただきました。

神奈川新聞社は、紙面を通じた広報や、修復に際しての時代考証、資料・部品の調達などを担当。サクラは、板金やガラス加工、電気などの業者とともに大規模な工事を担当しました。修復は 2012 年 1 月から 4 月にかけて実施。内外の修復と再塗装に加え、ヘッドライトや室内灯の点灯も可能となりました。

【現在の活動】

4 月の工事完成後も、「系統板受け」の取り付けやシートの張り替えなど、より「現役時代」に近づけるべく、細かな修復を続けています。あわせて、1~2か月に1回のペースで、清掃と車内公開イベントを開催しています。今後は、かつて市電に勤めていた方々への聞き取りや、神奈川新聞社が所蔵する資料写真の活用などを通じて、より多角的な「記憶の継承」に取り組んでまいります。

【横浜市電とは】

1904(明治 37)年に開業した路面電車。最盛期には総延長 51.79 キロの路線を運行、年間 1 億 2 千万人を輸送したが、道路渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響で、1966(昭和 41)年から順次廃止され、1972(昭和 47)年 3 月 31 日を最後に全廃された。現存車両は、横浜市磯子区の「市電保存館」の 7 両のほか、横浜市内に 4 両(野毛山動物園、久良岐公園、県警交通安全センター、市立中田小学校)が残るのみ。(写真左:2011 年 9 月/2013 年 8 月)



上松町 赤沢森林鉄道

(経済産業省「近代化産業遺産群」一部認定)

〒399-5601
長野県木曽郡上松町大字上松 159-3
上松町観光情報センター内
上松町役場 産業観光課 商工観光係
TEL 0264-52-1133 FAX 0264-52-4180
E-mail hinoki@avis.ne.jp
URL <http://www.town.agematsu.nagano.jp/kankou/>



(赤沢森林鉄道の運行状況)

2013 赤沢森林鉄道は 次の日程で運行されています。

○2013年度運行日程

今シーズンは、4月27日～11月7日まで軌道整備日を除いて連日運行しています。

【運行時間】

土曜・日曜・祝日・夏季及び紅葉シーズン

9:30～15:30の30分毎に1便運行

※夏季イベント期には9:00の便が追加

※上記以外の平日は10:00～15:00の1時間
毎に1便運行

【乗車料金】

通常時 大人(中学生以上)800円 小人(4歳～小学生)500円

夏休みイベント期(7月27日～8月18日) 大人1,000円 小人700円 ※イベント参加料金

●15名様以上は団体割引 各100円引

【運行区間】

森林鉄道記念館前～丸山渡停車場 往復2.2kmを25分で運行

2012年の記事

赤沢森林鉄道の運行業務は、第3セクター「上松観光開発(有)」に委託しています。

赤沢森林鉄道が運行されている赤沢自然休養林では、昨シーズン(2012年)の来場者が140,770人を記録し、初めて年間来場者数が14万人を突破しました。今シーズンも例年通りの運行を行い、多くのお客様にご利用を頂いています。



(ボールドウィン号)

まもなく100周年

伐木運搬としての森林鉄道を支え、役目を終えた現在は赤沢の森林鉄道記念館に保存されているボールドウィン号が製造されてから、まもなく100周年を迎えようとしています。この節目に何かできないかと、赤沢森林鉄道に関わる方々により検討が進められています。まだ準備段階のため内容は未定ですがボールドウィン100周年のお祝いができればと思っています。

樹齢300年以上の木曽ひのきが林立する森の中を、時速8kmでゆっくり運行します。
森林の風、川のせせらぎなど自然の息吹を五感で感じながら、森林鉄道をお楽しみ下さい。
多くのお客様のご乗車をお待ちしております。

一般社団法人伊豆市振興公社 虹の郷

410-2416 伊豆市修善寺 4279-3 Tel 0558 72 7222 Fax 0558 72 7133



NORTHERN ROCK II

保有車両 2,013年9月14日現在

蒸気機関車 4両

ERNEST W TWINING

2-C-1 1949年製造

NORTHERN ROCK II

1-C-1 1989年製造

CUMBRIA

1-C-1 1992年製造

C11 (金沢工業大学より貸与された)

1-C-2 1996年製造

ディーゼル機関車 2両

JOHN SOUTHLAND II

B - B 1988年製造

CITY OF BIRMINGHAM

0-C-0 1992年製造

客車

普通客車 (乗車定員 20名)

15両

車椅子用客車 (乗車定員 車椅子 4台 付添者 4名)

3両

軌道延長 本線 2,315m 引込線、待避線 700m

付帯設備 転車台 1基

建物 駅舎 2棟 機関庫 1棟

〔近況報告〕

John Southland (DL) 動輪フランジが垂直磨耗したので、肉盛溶接し削り出す。

CUMBRIA 先輪板バネ折損し交換

軌道 9月上旬に落雷被害があり保安設備に実被害をうける。3箇所踏切制御及び信号制御に実被害をうけたが、トランジスタ及び超音波センサーの交換にて復旧している。

機関庫引き込みポイント(3番)枕木交換、踏切枕木交換を行った。

入園者状況

昨年度1月より対前年度を上回り好調を維持するも、富士山世界文化遺産

登録を境に対前年度を下回る。夏休み期間にて再度盛り返すも暫くは富士山方面へ観光の流れが続くものと推測できる。

好材料としては、1月より8月末まで対前年乗車率を上回り続けており

根強い人気を実感している。

団体名

大井川鐵道株式会社

〒428-8503

静岡県島田市金谷東2丁目1112-2

TEL 0547-45-4111（代表）

TEL 0547-45-4112（営業部、SLセンター）



千頭駅構内で実施された機関車大集合(3両のSLが同時に汽笛吹鳴を行いました。)

◎運転車両

大井川本線(金谷～千頭駅間)

電車: 元近畿日本鉄道16000系、元南海電気鉄道21000系、元京阪電気鉄道3000系

蒸気機関車 C108、C11190、C11227、C5644

客車 オハ35系 スハ43系 等

電気機関車 自社発注E10(昭和24年製)、元大阪セメントED50型、元西武鉄道E31型

◎平成25年度の運転状況

普通列車(電車)上下各14本／日

SL列車は12月初旬まで毎日運転、以降3月中旬まで毎週火、木曜日は運転休止

観光シーズン中は臨時列車も含め、SL列車は1日に最大3往復運転を実施

夏期には電気機関車でお座敷客車及び展望車を牽引する納涼ビール列車を運転

◎最近の話題

平成23年10月の新金谷駅構内転車台完成に伴い、島田市をはじめ沿線市町との合同イベントを実施するようになりました。今年は3回目の実施で10月11、12、13日の3日間行われました。

大井川鐵道公式ホームページでは、SL列車座席予約をはじめ、車両の紹介、各種割引乗車券、イベントの情報などをご案内しております。

<http://www.oigawa-railway.co.jp/>

■名古屋市 リニア・鉄道館

〒455-0848

名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2

TEL 050 (3772) 3910 (JR 東海)

<http://museum.jr-central.co.jp/>

Information

○入館料

大人 1,000 円 (団体 800 円)
 小中高生 500 円 (団体 400 円)
 幼児 (3 歳以上) 200 円 (団体 100 円)
 ※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
 大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)
 年末年始 / 12 月 28 日 ~ 1 月 1 日
 (※春・夏・冬休みやGWは無休)

○展示

鉄道車両 39 両 + バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、
 超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、
 シミュレータ、シアターなど



【高速鉄道の歴史を築いた車両ズラリと並ぶ館内】

【2013 年の記事】

○200 万人突破 (7/22)

○企画展 (2/27~5/27)

「高速化への挑戦～在来線の技術が生んだ夢の超特急～」

○春のイベント (3/20~4/8)

クイズで巡る高速度試験の歴史、新幹線解説ガイド
 300 系ラストラン装飾、300 系新幹線の運転台公開、等

○夏のイベント (7/14~16, 7/21~9/2)

クイズラリー「新幹線をもっと知ろう！」
 ガイドツアー「新幹線の安全の秘密を探ろう！」
 ペーパークラフト教室
 お仕事紹介 (新幹線運転士編)
 100 系新幹線、C57 形式蒸気機関車の運転台公開

○秋のイベント (9/4~10/28)

クイズラリー「車体の秘密を探ろう！」(土休日のみ)
 収蔵車両公開ガイドツアー (キハ 82, クロ 165)
 0 系新幹線の運転台公開
 C57 形式蒸気機関車のお召装飾とお召関係展示
 新規シアター映像公開 (高速化への挑戦) 等



【大好評の解説ガイド】



【ペーパークラフト教室】

団体名	公益財団法人 博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地 電話 0568-67-0314
-----	--------------------------	---

近況報告

蒸気機関車

- ・ 12号機関車 平成24年10月13日 公開試運転開始
平成24年11月8日 運行を再開
3ヶ月1回、(株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を実施
- ・ 9号機関車 平成27年3月 修理工事終了予定



3等客車

- ・ ハフ11・13・14 平成24年3・4月 塗装工事を実施
3ヶ月1回、(株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を実施

京都市電

- ・ 市電1号 平成24年9月15日 公開試運転開始
平成24年9月28日 運行再開
3ヶ月1回、(株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を実施
- ・ 市電2号 平成26年3月 修理工事終了予定

設備工事・点検

- ・ 半年1回、(株)メイエレックによる電路・電気設備点検を実施
- ・ 半年1回、矢作建設(株)による鉄軌道点検整備を実施

今後の予定

平成25年9月21日から12月1日までの催事「秋の明治村」の開催に合わせ、「乗り物イベント」を開催します。

- ・ ハフdeランチ 9月28日、29日
- ・ チンチン電車と綱引きしよう! 9月22日、10月19日
- ・ 蒸気機関車9号特別展示 9月21日、10月5日、20日
- ・ SL車掌体験 10月12日、14日
- ・ SLバックヤードツアー 10月13日、27日
- ・ スギテツコンサート 10月26日
- ・ SL車内展示 9月21日～12月1日

長浜鉄道スクエア

旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・
北陸線電化記念館の総称

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番41号

Tel.0749-63-4091

Fax.0749-63-4011

旧長浜駅舎 明治15年3月10日、北陸線の始発駅として開業。現存する日本最古の駅舎。

長浜鉄道文化館 長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館。ヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくり。HOGEEジオリマがあります。

北陸線電化記念館 D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示。



旧長浜駅舎

平成24年度実績

年間入館者数 **55,392** 人(前年度 **54,619** 人)

夏休み企画「プラレールフェスティバル」	7月14日 ~ 9月2日
全国梅ポスター展	12月15日 ~ 3月12日
びわ湖観光ポスター展	1月10日 ~ 3月12日
長浜駅開業130年「明治の駅舎 鉄道の軌跡」	1月20日 ~ 5月8日
新幹線顔出し看板の設置	

平成24年度事業計画

夏休み企画「プラレールフェスティバル」	7月13日 ~ 9月1日
ちびっ子めり絵展	9月22日 ~ 10月16日
新春特別展「新幹線50年」	1月11日 ~ 3月10日
Nゲージ鉄道ジオラマのリニューアル	

公益社団法人長浜観光協会

〒526-8501 滋賀県長浜市高田町12番34号
Tel. 0749-65-6521 Fax. 0749-64-0396
e-mail kankou@city.nagahama.shiga.jp <http://www.nagahamashi.org/>

■2012年度の活動経過

2012年度は、収蔵車輛のうち劣化した鋼製車輛の再塗装他修繕、木造有蓋車ワ11形11の修復作業を実施した。また、貨車の側面に差された貨車の切符＝「車票」の歴史を解き明かした初の解説書「貨車車票の歴史」領価1,500円(税込)の発行を行った。



国鉄テラ1形146 修繕作業
2012年12月2日

■2013年度の活動計画

2013年度は、9月の開館10周年に合わせて、写真コンテスト・ヘッドマークコンテスト、記念列車、修復車輛披露イベント、公式ガイドブック発行などの記念事業を行う。



大修復が完了した
西濃鉄道ワフ21000形21120
2013年8月27日

◆2013年度定期開館日

2013年4月7日(日)、5月5日(日)、6月2日(日)、7月7日(日)、8月4日(日)、9月1日(日)、
10月6日(日)、11月3日(日)、12月1日(日)、2014年1月12日(日)、2月2日(日)、3月2日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	広報部(鉄道文化) 〒530-8341 大阪市北区芝田2-4-24 TEL 06-6375-2176
	(公財)交通文化振興財団	交通文化振興財団 事務局 〒552-0001 大阪市港区波除3-11-10 TEL 06-6581-5771

西日本旅客鉄道株式会社は、公益財団法人交通文化振興財団に交通科学博物館と梅小路蒸気機関車館の運営を委託をしています。

交通科学博物館は、大阪環状線開業記念事業として1962(昭和37)年に日本国有鉄道によって開設されました。鉄道を中心とした交通の科学と歴史・文化を展示テーマとする、交通全般を扱う博物館です。長年にわたり皆さまから親しまれ、去年は開館から50周年を迎えました。

梅小路蒸気機関車館は、国内唯一の蒸気機関車の専門館で鉄道開業100年にあたる1972(昭和47)年に開設されました。常時動態保存機の整備や運行を行っており、施設の一部は重要文化財指定を受けています。2012(平成24)年には開館40周年を迎えました。



整備された230形蒸気機関車

○交通科学博物館

交通科学博物館では現在、保存車両の整備工事を進めています。まず初めに230形蒸気機関車の整備が完了し、続いて第二展示場に保存しているDD13形、DF50形、DD54形の各ディーゼル機関車の整備を行っています。今後も保存車両の整備を進め、美しくなった姿を公開していく予定です。



なお当館は、2014(平成26)年4月の閉館が決定しました。閉館を前に、当館が保存している資料を公開する「収蔵品コレクション曝涼展」を12月15日まで開催しています。

これまでお見せすることのなかった資料を多数展示し、長年の収集・保存活動の成果をご覧ください。また来年1月上旬から、さよなら企画展Part IIを開催予定です。他にも各種イベントを企画しておりますので是非ご来館ください。

○梅小路蒸気機関車館

梅小路蒸気機関車館は、蒸気機関車とともに歴史を刻んできた日本の鉄道文化を体験・学習し、蒸気機関車の魅力を再発見していただけるよう活動しています。

2012(平成24)年度は、開館40周年を記念した展示や催物を開催しました。これに合わせて、過熱管・主蒸気管の経年劣化などにより展示運転を見合わせていたC62形2号機が約3年半ぶりに復帰しました。特製のヘッドマークを付け、蒸気を上げ力強く走行する姿は、多くのお客様を魅了しました。



開館40周年記念イベントに合わせ復活したC62形2号機

団体名



加悦SL広場

宮津海陸運輸(株)

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-42-3186 FAX 0772-43-0080

URL <http://www.kyt-net.jp/kayashiroba/>

近 況

■ ハ10号 客車(大阪梅鉢鉄工所 製) 修復作業中



ハ10号 客車

大正15年11月 大阪梅鉢鉄工所製
車体: 木造、ダブルルーフ 定員78人
与謝野町 指定文化財: 加悦鉄道車両群

車歴

大正15年12月～昭和43年8月
走行キロ 619,360km
昭和45年12月31日 休車
平成5年7月～平成6年12月に大修理
2等室、3等室を復元



加悦鉄道 創業時より在籍車両で
昭和13年～昭和20年頃に2等室に
戦没者の遺骨を迎える祭壇を設け
英霊車として使用した経緯もあります。

■ 平成24年11月SL広場「周年祭」 及び 平成25年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

■ 展示車両の小修繕

キハ1018、TMCモーターカー、ハ21号客車、キハユニ51 など



キハ1018

■ 平成25年度 SL広場「周年祭」 平成25年11月3日(日)～4日(月) 開催予定 与謝野町 同地区施設等との連携イベント「滝・金屋地区 秋の大感謝祭」と共催します

加悦鉄道再現列車 運行の様子



■ 旅の思い出に「オリジナルプリントシール機」を導入



今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存・維持に取り組んで参ります。

特定非営利活動法人

加悦鉄道保存会

〒629-2403

京都府与謝野町加悦433番地 旧加悦鉄道加悦駅舎

TEL/FAX 0772(43)0232

HP <http://kayatetsu.web.fc2.com/>

■2012年10月～2013年9月までの主な活動



加悦鉄道資料館 特別展
「合図燈 いま・むかし」



当会紹介用プロモーションビデオ
製作



関西学院大学鉄道研究会
夏季合宿受入

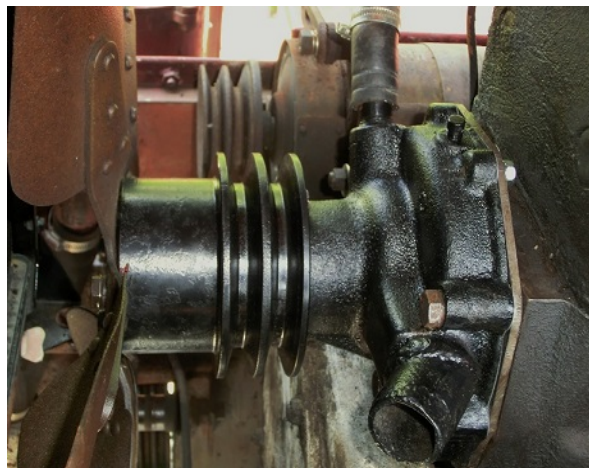
○ 2013年9月現在、会員数は44名、年齢は13歳から83歳と幅が広いですが、自分が出来る範囲内で楽しみながら活動しています。

○ ホームページのご案内
より詳しい作業状況やイベント情報、オリジナル商品の情報が満載です。

<http://kayatetsu.web.fc2.com/>



ライブスチーム講習会



DB201 ウォーターポンプ
分解修理

団体名 ふるさと鉄道保存協会

事務局 〒674-0051

兵庫県明石市大久保町大窪 818-3 中井方

TEL 090-3896-1046

E-mail furutetu1999@yahoo.co.jp

URL <http://furutetu.web.fc2.com/>

貴重な車両など鉄道遺産の保存、活用のための各種活動を行うボランティア団体です。

【最近の活動】

★本部

- ディーゼル機関車DB20、キハ605、貨車等を金屋口鉄道保存会様に貸与し和歌山県有田川町鉄道交流館で動態保存



★チャリトロワーキンググループ

- 軌道用モーターカーの活用(栃木県日光市)
- 軌道自転車を伊賀鉄道様に貸与(三重県伊賀市)
「伊賀線まつり」で体験乗車



★鉄道郵便ワーキンググループ

- 鉄道郵便車オユ10 2565 一般公開
「鉄道郵便車フェスティバル 2013 スプリング」
「鉄道郵便車フェスティバル 2013 オータム・リフレッシュ」
平日に駅係員案内による公開を開始
- 能登半島地震復興基金による車体修復、塗装を実施



★ヨ9001 ワーキンググループ

- 高速設計車掌車ヨ9001の保存公開(福岡県赤村)
下回り注油、車内清掃を実施



片上鉄道保存会

〒736-0081 広島県広島市安芸区船越 2 丁目 26-5

TEL:(082)507-2035 (代理: 株式会社片上鉄道)

katatetsu-hozonkai@okayama.email.ne.jp

<http://www.ne.jp/asahi/katatetsu/hozonkai/>



平成 24 年 10 月 6 日の展示運転

平成 25 年度は、変わらずお客様も来られています。

海外特に台湾からのお客様が増えています。

活動内容は変わらず、保線・車両整備・景観整備・システム保全など、鉄道としてやるべきことを粛々と継続いたしております。

5 月にはテレビ東京系『廃線跡歩きの旅』で片上鉄道廃線跡が紹介されました。



柵原駅構内から分岐器を運び出しました

◆片鉄保存会の主な作業内容

- ・3 番線延伸
- ・キハ 702 塗装
- ・DD13-551 銘板類復元
- ・柵原口駅(仮)運用開始
- ・トラ 814 塗装・動態復帰
- ・柵原駅構内枕木・分岐器・レールなどを運び出し

・2013 年 11 月、キャンドルコンサートに合わせて夜間展示運転を行いました。



夜間展示運転の様子

岡山の鉄道博イベントにてトラ 840 を貸出展示しました。

トラ 840 塗装・岡臨 7001 修復塗装作業を保存会として作業協力しました。



「若桜駅を元気にする会」の活動報告

《団体の概要》

設立日：平成 23 年 1 月 27 日（前身：若桜駅 S L 保存会 平成 18 年 11 月設立）
会 長：藤原 源市
会員数：45 名（H25.9 現在）
目 的：若桜駅と地域の発展を目指した活動を展開する。

《2013 年度の取り組み》

2012 年 12 月に鉄道総合技術研究所所属のディーゼル機関車 (DD16-7) を新たに導入し、蒸気機関車 (C12-167 号機) や旧国鉄 12 系客車 3 両 (オロ 12-9、スロフ 12-3、スロフ 12-6)、トロッコ車両 (元長野電鉄の無蓋車ト 6) とともに運転体験や乗車体験に活用し、若桜駅と宿場町の若桜宿は多くの観光客で賑わっています。

若桜駅を元気にする会では若桜駅と沿線地域の振興のため、若桜駅周辺の美化活動、若桜駅周辺で開催されるイベントへの協力などを行っています。

また、若桜鉄道沿線の 11 団体が若桜鉄道沿線活性化協議会を設立し、観光列車の運行実現のための啓発活動や国登録有形文化財に指定されている 23 の駅舎や鉄道施設を活用したイベントを実施し、沿線地域の活性化に取り組んでいます。



左：S L (C12-167)
右：D L (DD16-7)・12 系客車



トロッコ列車による乗車体験
(元長野電鉄 無蓋車ト 6)

《今後の取り組み》

- ① 軌道周辺の草刈りなどの美化清掃活動、若桜鉄道が実施する利用促進運動、観光振興施策、鉄道施設保存活動の支援
- ② 鉄道と駅周辺の活性化につながる事業

○最重要課題

ディーゼル機関車や 12 系客車を使った観光列車運行の実現を目指し、若桜鉄道と沿線地域の活性化のため、引き続き取り組んで行く。(最終目的は蒸気機関車の運行)

団体名	山口線SL運行対策協議会	連絡先 〒753-8501 山口県山口市滝町1-1(山口県観光振興課内) TEL:083-933-3170 FAX:083-933-3179 E-mail:c571@c571.jp HP:http://www.c571.jp/
-----	--------------	--

SL「やまぐち」号部分運行再開

7月28日の豪雨災害により、運行が取り止めとなっていたSL「やまぐち」号が山口線の一部区間において運行を再開します。

1 SL列車の運転

新山口駅発・地福駅行(片道のみ)として、1日1本を運転します。

新山口駅:10時48分発～地福駅:12時14分着

(途中停車駅:湯田温泉、山口、仁保、篠目、長門峡)

(1)「SLがんばろう山口・津和野」号

・運転日 11月2日(土曜日)・3日(日曜日)

・編成 SL「C56」+DD51+レトロ客車5両

(2)「SLクリスマス」号

・運転日 12月21日(土曜日)

・編成 SL「C56」+DD51+レトロ客車3両

(3)「SL津和野稲成」号

・運転日 平成26年1月1日(水曜日)・2日(木曜日)・3日(金曜日)

・編成 SL「C56」+DD51+レトロ客車3両

※全車指定席。指定券は駅の窓口などで1カ月前から発売。

ただし、「SLがんばろう山口・津和野」号については、10月19日(土曜日)10時から発売。

※津和野を観光される方は、無料の観光アクセスバスが地福駅より利用可能。

※「DD51」は、ディーゼル機関車。



2 SLの展示

次のとおりSL(C56)の展示を実施します。

(1)10月26日(土曜日)10時から11時30分まで(場所)新山口駅構内

(2)11月4日(月曜日)10時から15時まで(場所)下関総合車両所新山口支所構内

【山口線SL運行対策協議会】

- (1)事業 安全対策、環境対策、宣伝対策、その他
- (2)会員 JR西日本、山口県、島根県、山口市、津和野町
- (3)事務局 山口県商工労働部観光振興課
- (4)協議会の発足 昭和54年1月16日



【SL「やまぐち」号】

- (1)運行開始 昭和54年8月1日～
- (2)運行区間 新山口駅—津和野駅(62.9km、約2時間)
- (3)定員 360人
- (4)客車 ①展望車風(56)②欧風(80)③昭和風(80)④明治風(72)⑤大正風(72)

ご当地ちよる／SL「やまぐち」

団体名

馬路村

〒781-6202

高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所

TEL : 0887-43-2211 FAX : 0887-43-2208

E-mail : yanase@mb.inforiyoma.or.jp

URL : <http://www.inforiyoma.or.jp/umaji/>

～再び追い風をうける林鉄～

銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村。

木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。この鉄道は、林業の繁栄をもたらしただけでなく、地域で暮らす住民たちの唯一の交通機関でもあり、生活物資や文化までも運んだかけがえのないものでした。

時代の移り変わりとともに、惜しまれながら昭和38年に廃線され、軌道などの撤去が行われましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在しています。

その18箇所（馬路村内では4箇所）が平成21年6月、国の重要文化財の指定を受けました。

広域（馬路村を含めた5ヵ町村）で国の重要文化財の指定をうけるのは、我が国初のことです。

さらに、昨年度、魚梁瀬森林鉄道開通100周年の記念事業として、サミットが馬路村魚梁瀬地区で開催されました。狭軌の鉄道遺産を保存活用している全国各地の活動団体を中心に、せまい鉄道遺産を生かした地域づくりを考えました。

現在、各メディアの後押しもあり、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 9時30分～12時、13時～15時30分
〔11月～3月は15時まで〕〔8月は土曜も運行〕

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所

TEL:0887-43-2211



↑高知新聞朝刊

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時
〔8月は毎日運行〕

◎料金／乗車大人300円など

◎お問い合わせ／馬路温泉

TEL:0887-44-2026



団体名	九州旅客鉄道株式会社	連絡先（住所・電話等） 〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898
-----	------------	--

九州鉄道記念館 開館 10 周年

九州鉄道記念館では、平成 25 年 8 月に開館 10 周年を迎えるにあたり、ブルートレイン（スハネフ 14 11）や 485 系、ED76、EF30 の運転台といった常設展示物を新設しました。

また、8/10～11 にかけて 10 周年記念イベント「10th 誕生祭 in 九州鉄道記念館 鉄道の祭典」や記念セレモニーを開催し、ご家族連れや鉄道ファンなど多くのお客さままでにぎわいました。



SL 人吉 運行開始 5 周年

平成 25 年 4 月に「SL 人吉」が、運行開始 5 周年を迎えたことを記念し、熊本駅にて熊本城おもてなし武将隊・加藤清正公を 1 日駅長に迎え、記念出発式を開催しました。

8620 形蒸気機関車・通称ハチロクは、かつて大正 3 年に国産初の量産型旅客用機関車として登場したもので、現役では最高齢の SL です。現在は「SL 人吉」として、全国から高い人気を集めています。「SL 人吉」で極上の鉄道旅行をお楽しみください。



平成 25 年度「SL 人吉」運転概要

運 転 日：平成 25 年 3 月～11 月

【土・日・祝日及び一部の月・金
を中心に運転。春休み・夏休み期
間は水曜日を除く毎日運転】

運行区間：熊本～人吉駅間（1 日 1 往復）

※冬季期間中は運転しません。

北九州線車両保存会

福岡市東区香住ヶ丘 7 丁目 2-1
香椎花園内 レトロ電車パーク
電話 080-6412-1666 (代表手嶋)
<http://kitakyuushuusen.main.jp/>



北九州線車両保存会は平成 13 年春に結成した任意団体で活動から 13 年目となります。
平成 13 年に西鉄北九州線のさよなら電車になった 621 号を購入し、のちに土佐電より元北方
線 324 号を購入、平成 24 年より西鉄香椎花園へ設置し週末の公開を行っております。
今後も西鉄軌道線の歴史を伝える活動を続けてまいります。

[最近の活動] 車両修繕塗装に全国出張やります!!



福岡市貝塚公園ナハネフ22 全塗装



岡臨顔の会 塗装部分を担当

公開状況

621 号	324 号	香椎花園開園日 土曜日 曜祝日
148 号		門司港レトロ地区 毎週日曜日 3 月～11 月

日 本 鉄 道 保 存 協 会

100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1
新国際ビル 903 号 公益財団法人交通協力会気付
電話 03 6269 9808 FAX 03 6269 9809
URL: <http://www.rpsj.jp>
Email: rpsj.tetsudo.hozon@gmail.com